

# 全国から腕自慢41人参加

## 福岡県解体工事業協会のDee-1グランプリ



優勝した大久保さん（左）

福岡県解体工事業協会（平典明会長）は28日、福岡市の国営海の中道海浜公園で解体工事における重機オペレーターの日本一を決める「Dee-1グランプリ」を初開催した。北海道から沖縄県までの日本全国から腕自慢の重機オペレーター41人が参加し、現場で磨い

た技能を競い合った。埼玉県の大久保直彦さん（杉田工業）が優勝に輝き、妹尾晃大会実行委員長から優勝トロフィーとメダル、賞金などが手渡された。大久保さんは「優勝は本当にうれしい。解体業の良さをもっと知ってほしい」と喜びをかみしめた。 Ⅱ1面参照

大会は、解体工事における繊細な作業、スピードの必要な作業、大胆さが必要な作業の3要素を盛り込んだ複数の競技で技を競った。予選は、メイン1競技とサブ2競技の計3競技を実施し、メイン競技の上位4人とサブ2競技のトップ2人、21世紀枠1人の計7人が決勝に進んだ。

決勝のスネークパイプヒーローは、重機で棒をつまみ、迷路のような金属製コースフレームをスタートからゴールまで通した後、コース上の複数の風船を割る競技で、決勝のタイムが最終順位となる。フレームをさわるたびに時間が5秒加算される仕様で慎重さとスピードが求められたが、上位陣は3分台で僅差となり、1位が大久保さん、2位が福岡県の清水琢真さん（妹尾産業）、3位は岡山県の黒田一弘さん（ヒラキン興産）となった。

妹尾委員長は「大会が大成功に終わったのは皆さんのお力添えのおかげだ。解体業界が発展するとともに、またいつか大会を開けることを願っている」と総括した。

